

ビンナガ 北大西洋

Albacore, *Thunnus alalunga*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

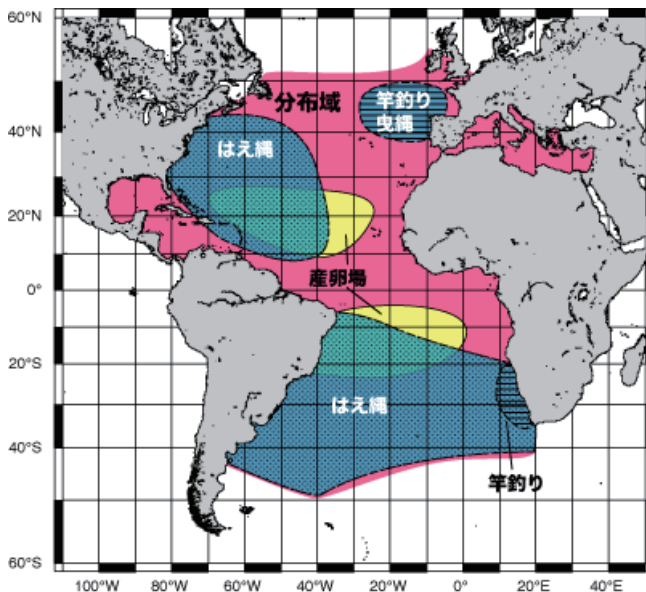
2007 年 7 月に ICCAT 調査統計委員会 (SCRS) は大西洋ビンナガの資源評価会合を行った。その結果北大西洋ビンナガについては前回資源評価よりも悲観的となり、TAC を削減するよう勧告がなされた。

生物学的特性

- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：5 歳頃
- 産卵場：西部では北緯 25~30 度で、中部から東部では北緯 10~20 度
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

利用・用途

刺身や缶詰原料



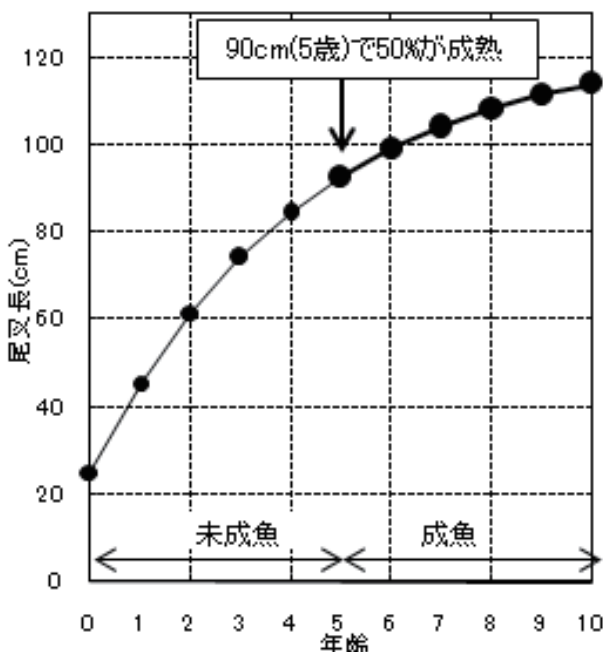
北大西洋のビンナガの分布と主な漁場

漁業の特徴

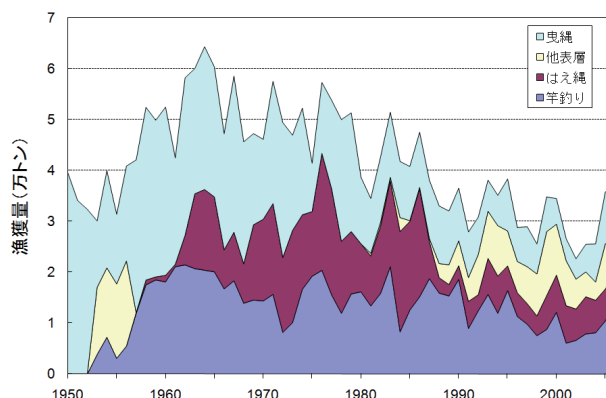
北大西洋のビンナガは、ビスケー湾周辺の海域でスペインのひき縄及び竿釣り、またアゾレス海域でスペイン及びポルトガルの竿釣り、古くから漁獲されてきた。1980 年代後半から、新しい漁業として、流し網や中層トロールによっても漁獲されるようになった。はえ縄による漁獲の総漁獲量に占める割合はあまり大きくなく、台湾が主に漁獲している。

漁業資源の動向

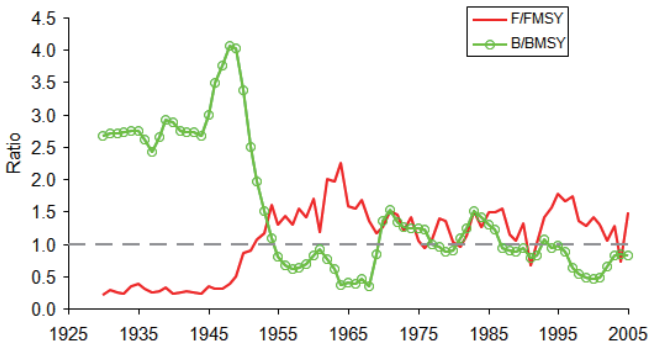
本資源の年間総漁獲量は 1960 年代中頃 (約 6 万トン) がピークで、徐々に減少した。その原因は主にひき縄、竿釣り及びはえ縄などの伝統的な漁法の努力量の減少である。総漁獲量は 1999~2002 年にかなり減少し、2002 年の 2.3 万トンは過去 25 年間で最低であった。しかしその後、表層漁業による漁獲量が増加して、総漁獲量は 2004 年に 2.5 万トン、2005 および 2006 年には 3.6 万トンへと回復した。



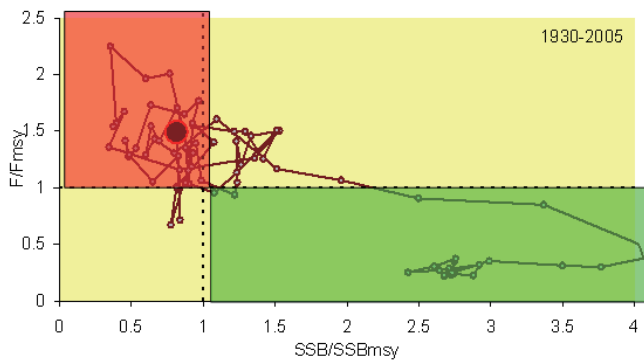
北大西洋ビンナガの年齢と尾叉長 (cm) の関係(Bard 1981 より)



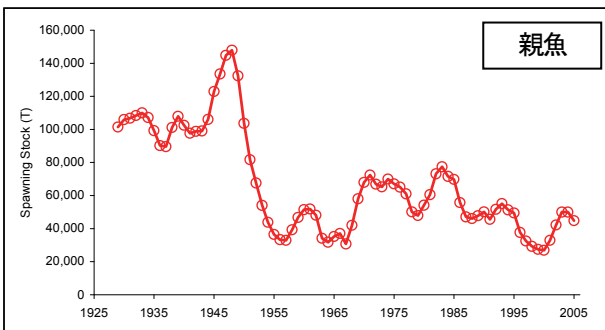
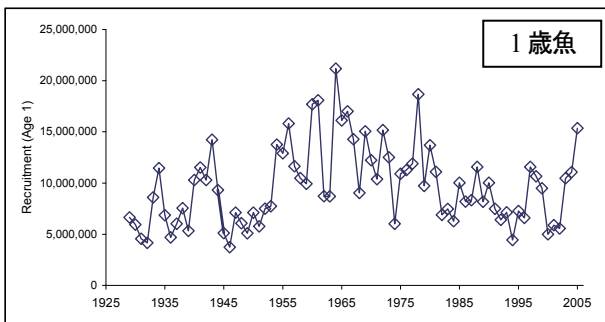
北大西洋ビンナガの漁法別漁獲量(ICCAT 2007 SCRS Report より)



北大西洋ビンナガの MSY を基準とした相対親魚資源量 (SSB/SSB_{MSY}) および相対漁獲係数 (F/F_{MSY}) (ICCAT 2007 SCRS Report より)



資源状態を表す SSB/SSB_{MSY} と F/F_{MSY} との間の位置関係 (1930~2005 年) (ICCAT 2007 SCRS Report より)



Multifan-CL モデルから得られた北大西洋ビンナガの 1930~2005 年の加入量および親魚資源量 (ICCAT 2007 SCRS Report より)

資源状態

2007 年に実施された最新の資源評価では、親魚資源量は 2000 年には MSY レベルを 50% 下回っており、その後やや改善したもの、2005 年には依然として MSY レベルを 20% 下回っていた。漁獲係数は近年 MSY レベルを上回っており、2005 年では 50% 上回っているとされた。将来予測では、今後 2005 年レベルの漁獲が続けば、親魚資源量は減少すること、および漁獲量が 30,000 トン以上では親魚資源量は乱獲状態から回復できないことが示された。

管理方策

1999 年から漁獲能力を抑えるために、入漁隻数を制限しているほか、TAC も設定されており、2007 年の年次会合では、2008 年および 2009 年の TAC はそれまでより 4,300 トン少ない 30,200 トンと決定された。また日本については、ビンナガを目的とした操業を行っていないので、漁獲量が大西洋全体におけるはえ縄によるメバチの漁獲量の 4% 以下になるよう努力するという規制が課せられている。

資源評価まとめ

- 2005 年の親魚資源量は MSY を与えるレベルを 20% 下回っていた。
- 2005 年の漁獲係数 MSY を与えるレベルを 50% 上回っていた。

資源管理方策まとめ

- 2008~2009 年の TAC を 30,200 トンとし、国別割り当て量を設定。
- 漁獲能力 (隻数) の制限。
- 日本にはビンナガの漁獲量を大西洋全体のはえ縄によるメバチ漁獲量の 4% 以下とする努力義務。

ビンナガ(北大西洋)の資源の現況 (要約表)

資源水準	低位
資源動向	増加
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.3~3.6 万トン 平均 2.9 万トン (2002~2006 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	681~1,391 トン 平均 1,013 トン (2002~2006 年)